年頭の挨拶

鹿児島県看護協会 会長　八田　冷子

令和８年を迎え，謹んで新春のお慶びを申し上げます。

鹿児島市医師会の先生方におかれましては，本年も引き続き，本協会会員はもとより看護職へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2040 年に向けては，働き手の不足や IT 化の推進などに加え，更なる高齢化，高齢単身世帯の増加をはじめとする様々な社会変化を背景に，より複雑かつ複合的なニーズの多様化が見込まれており，関係機関との連携・協働の必要性が今まで以上に高まることが予測されています。

このような中，昨年６月，日本看護協会は，「看護の将来ビジョン 2040」を公表しました。これまでの看護ビジョン「人々の命くらし尊厳を守り支える看護」は今後も普遍的なものであることを再確認した上で，看護職が日々の実践にやりがいを実感し，心身ともに充実して働ける環境づくりとともに，看護職一人ひとりの看護実践の質を高め，より高い自律性を持って看護にあたれるよう，看護の目指すべき方向性を示しています。本協会としても，その方向性を踏まえた活動に取り組んでまいりたいと考えております。

一方で，本協会ナースセンターにおける無料職業紹介所の看護職有効求人倍率は令和７年 10 月末現在 2.01 倍であり，国の 3.52 倍に比べ低い状態となっておりますが，若年人口が減少する中，医療・介護分野で働く人材の確保は，これまで以上に深刻化することが見込まれます。看護管理者からは，夜勤のシフト組みや看護補助者の確保などにも苦労しているとの声が寄せられております。

また，近年，県内看護師等養成学校の入学者は年々減少しており，このまま推移すると，看護大学入学者数はある程度維持されるものの，2030 年頃には３年課程の入学者数は激減すると推計されております。

このような状況を踏まえ，県医師会や本協会，県教育協議会など関係団体で構成される看護職員確保対策検討会主催で令和７年８月に「鹿児島県看護就職ガイダンス（見つけよう！鹿児島で働く魅力～地元の看護の魅力を深堀り～）」を実施し，56 の出展施設の参加と 230 名という多くの来場者がありました。ガイダンスでは，県内で働く１～３年目の新人看護職 10 名が鹿児島で働く魅力を語り，日々の看護実践にやりがいを感じていることの報告がありました。今後も，このような県内就業につながる働きかけの必要性を強く感じたところです。

働く場が高度急性期，急性期，回復期，慢性期の病院，訪問看護や介護施設など多様化し，今後も医療・介護ニーズの増大が見込まれる鹿児島保健医療圏においては，鹿児島市医師会と本協会との連携はますます重要になると思われます。2040 年を見据えた看護職確保・定着対策につきましては，一つの医療機関や一つの職能団体だけでの取組みには限界があり，多職種・多機関と協働して地域全体で取り組む必要があると考えておりますので，先生方からの忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

結びに，鹿児島市医師会の益々のご発展を祈念し，新年のご挨拶とさせていただきます。